INFORMATION MAGAZINE THE JOURNAL

ザ・ジャーナル!!

Vol.8
No.2

National Hospital Organization Okayama Medical Center

やさしさ便り～岡山医療センターの今

地域災害拠点病院
地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
総合周産期母子医療センター

岡山医療センターの理念

人にやさしい病院
–Human Friendly Hospital–

1 患者さまにやさしい病院を目指します
2 病院で働く人にやさしい病院を目指します
3 地域の人にやさしい病院を目指します

CONTENTS

2 特集 糖尿病・代謝内科紹介
4 センター NEWS
5 妊娠と薬外来について
6 320列CT装置導入／初期研修医通信
7 地域医療連携の夕べ／かかりつけ医ハンドブック
8 健康レシピ
9 臨床研究推進室便り／医療安全レポート
10 看護助産学校通信／リソースナース室通信
11 キャリアアップ研修を企画して
12 TOPICS!／編集後記

携帯サイトを
開設しました!

表紙写真：2013.8.2　夏祭り
撮　　影：近藤　博行

特集

糖尿病・代謝内科紹介

平成19年の国民健康・栄養調査では、「糖尿病が強く疑われる人」が890万人。「糖尿病の可能性を否定できない人」の1,320万人と合わせると全国で2,210万人にもなります。

もしかして、自分もそうかもしれない。ドキッとした読者の方もいるのでは?そんな方は、まず受診を、そして「あなたは糖尿病です」ともし告げられたら…。当院での治療について、以下をご覧ください。（編集部）

当科の糖尿病診療の特長として、医師とメディカル・スタッフ（看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士、歯科衛生士）が一体となって協力・連携し、患者様お一人お一人のセルフケアをサポートする「チーム医療」に力を入れています。また、インスリン・ポンプ療法や持続血糖測定(CGM)、グルコースクランプ等の最新の治療・検査を積極的に導入し、患者様が安心して最新の医療を受けて頂けるよう努めています。

● 糖尿病教育入院

通常２週間コースですが、患者様のご都合に応じて１週間コースも可能です。年間約350名の方が教育入院され、糖尿病についての正しい知識を効率よく勉強し、食事療法・運動療法の進め方などを習得します。糖尿病療養指導士が中心となって、きめ細かな指導を行います。また、膵臓のインスリン分泌能を詳細に把握し、患者様個々の病態に応じた適切な治療を提案します。糖尿病合併症についても綿密に精査し、必要に応じてその治療も行います。

● 糖尿病教室

２週間を１クールとして糖尿病教室を行っています。入院中でない方や患者様のご家族の方もどうぞご参加ください。参加ご希望の方は、内科外来看護師にお問い合わせ下さい。

・日時：毎週 月・水・木曜日　午後1時～2時。

・場所：4階　母子医療指導室

・料金：無料。ただし、栄養士の講義のみ集団栄養指導料（保険適応）が必要になります。

1週目	月	糖尿病ってどんな病気? あなたの**足**は大丈夫?
	水	糖尿病合併症:**しめじの法則** おいしくて体によい食事
	木	**心筋梗塞、脳梗塞**のおはなし 色々あります、飲み薬
2週目	月	楽しくて長続きする運動のコツ
	水	**歯周病**と糖尿病の**キケンな関係** **外食**の楽しみ方
	木	もうこわくない、インスリン注射 病気の時の対処法

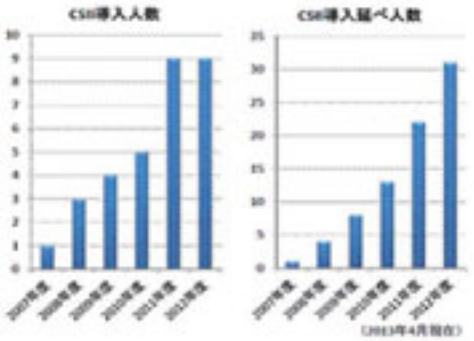
※スケジュールの詳細は当院HP上に掲載しています。

● インスリン・ポンプ療法

（CSII: continuous subcutaneous insulin infusion）

当院ではカーボカウントの習得や生活スタイルに合わせたインスリン注射法など、特に1型糖尿病患者様の治療に力を入れており、1型糖尿病患者様を中心に積極的にインスリン・ポンプ療法を導入しています。インスリン・ポンプ療法では、場所や時間を選ばず必要な時に必要なだけインスリンを注入出来るため、より良い血糖コントロールを実現し、かつQOL（生活の質）が大幅に向上します。また、3日に1度の注入セット交換のみでよく、毎回注射の必要はありません。

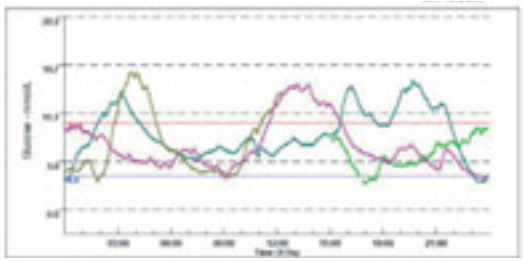
(Medtronic「インスリンポンプ療法について」)



● 持続血糖測定

(CGM: continuous glucose monitoring)

皮下に一時的に留置したセンサーにより組織間質液中のグルコース濃度を連続測定（最大288回/日）する血糖測定システムです。CGMを用いて連続的な血糖変動をより正確に評価することにより、糖尿病治療の最適化、すなわち患者さま個々の状態に即したより良い治療方針の選択が可能になります。



● ベッドサイド型人工膵臓

血糖値を連続的に測定し、これに応じて自動的にインスリンおよびブドウ糖を注入する装置です。コンピュータによる血糖制御により、「糖尿病の病態把握のための検査」や「治療目的の厳密な血糖制御」を可能にします。当院でも糖尿病の病態解析やインスリン抵抗性の定量的評価の目的で、必要に応じて人工膵臓を用いたグルコースクランプ検査を実施しています。

● フットケア・ユニット

糖尿病による神経障害や下肢の血流障害、足白鮮（水虫）などが原因となって、糖尿病性足潰瘍・足壊疽に発展する患者様に対応するため、関係各科フットケア専門の糖尿病療養指導士が協力・連携して「フットケア・ユニット」を設立し、糖尿病足病変（diabetic foot）の予防と適切な処置・治療を行っています。2009年6月から「糖尿病フットケア外来」を開設し、足病変に対する適切な処置と併存する合併症の治療、治療靴や装具作成を専門的に行い、各科横断的に切れ目のない診療を目指しています。

糖尿病・代謝内科スタッフ

肥田（ひだ）　和之（かずゆき）　医長
日本糖尿病学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医

伊勢田（いせだ）　泉（いずみ）　医師
日本糖尿病学会専門医、日本内科学会総合内科専門医・指導医

利根（とね）　淳仁（あつひと）　医師
日本糖尿病学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医

寺見（てらみ）　隆宏（たかひろ）　医師
日本糖尿病学会専門医、日本内科学会認定内科医

太田（おおた）　徹（とおる）　専修医

岡田（おかだ）　早未（はやみ）　吾郷（あごう）　太介（たいすけ）　レジデント

夏祭り

■実行委員会 副院長　後藤　隆文

ボランティア室や環境整備室のメンバーと平成17年の第1回から“夏祭り”をお手伝いしていますが、マンネリ化打破のため少しずつ内容を変えながら開催に臨んでいます。昨年から「浴衣コンテスト」を、今年は「フラダンス・フラメンコショー」を企画しました（フラガール・フラメンコの皆さん、素敵な踊りを有り難うございました）。その他、花火大会・吹奏楽演奏・金魚すくい等々も企画したのですが、実現には至りませんでした。

さて、来年は10年目というメモリアルです。今からあれこれと企画を考えるのは早過ぎるでしょうが、騒ぐのは好きだが企画は不得手という実行委員の面々の顔を思い浮かべると、少しでも余裕のあるうちに・・・・と思ってしまいます。

ところで、当初はお世辞にも“う●い”とは云えなかった焼き○○やパン○ー○が、回を重ねるごとに美味くておいしい“屋台の料理”に変身してきたことを皆さんはご存知でしょうか。異動等により料理に携わるメンバーが変わっても、組織による「経験の蓄積」が料理をより美味しくさせた結果だと思います。更なる料理の深化を期待してください。

幸い、夏祭り中の事故・食中毒はこれまでありません。これからもこの祭りが安全にとり行われ、地域の方々、職員とそのご家族の皆さんにとっての毎夏の思い出の一つになれば幸いです。

第８回がん市民公開講座を開催しました

■消化器科医長　山下　晴弘

7月13日に岡山国際交流センター国際会議場において第8回がん市民公開講座が開催されました。今回のテーマは国の定める5大がん※の最後「肝がん」です。

今まで色々な形で市民公開講座を企画してきましたが、基本的には担当した科の話のみで、がんの進行具合・病期に応じて治療を系統的に話をする形はなかなか実現しませんでした。

そこで、今回の市民公開講座を企画するに当たり消化器科・消化器外科・放射線科のそれぞれの立場から治療戦略を話す形にしたいと考えました。

それぞれの科のスペシャリストである内視鏡センター長・消化器科医師松下公紀先生、消化器外科医長太田徹哉先生、放射線科医師向井敬先生にお願いをした結果、皆様方に快諾していただき今回の市民公開講座を実現することが出来ました。

市民公開講座は「肝がんに対する治療戦略･･･①内科の立場から、②外科の立場から、③放射線科の立場から」と題し、各々の立場から病期別に治療の方針をご来場の皆様方にわかりやすく、時にダイナミックな動画を織り交ぜながらお話しいただきました。

多数の方々にご来場いただいた上、市民公開講座終了後も活発な質疑応答が続き、5大がん最後の市民公開講座にふさわしい形で皆様方にご満足いただけたのではないかと自負しています。

科の垣根を越えてご協力いただきました皆様方にこの場を借りて感謝いたします。どうもありがとうございました。

※ 肺がん、胃がん、大腸がん、肝がん、乳がん

妊娠と薬外来について

■薬剤科　琢磨　律儀

当院では6月より「妊娠と薬情報センター」の拠点病院に指定され、妊娠と薬外来を開設しました。

「妊娠と薬情報センター」は、国立成育医療研究センター（東京都）が厚生労働省の事業として、「妊婦・胎児に対する服薬の影響」に関する相談・情報収集を実施している事業です。外来では、産科医師・新生児科医師・薬剤師が連携して、妊婦や妊娠希望者に持病でお薬を飲んでいるが、妊娠しても赤ちゃんに影響はないのか、妊娠していることを知らずにお薬を飲んでしまった場合の相談をおこなうとともに、科学的に検証された医薬品情報を提供することで、妊婦･胎児への影響を未然に防ぐことに務めています。また妊婦の協力を得て、服薬が妊娠に及ぼす影響を調査・蓄積し、「薬剤情報データベース」を構築、検証・評価された情報として提供できる体制に協力しています。

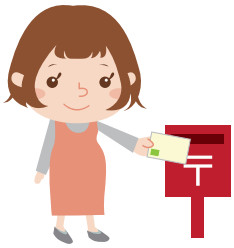
お申込みまでの流れと相談日・料金は下記のとおりです。入院患者様は、この限りではありません。詳細は、当院または妊娠と薬情報センターホームページをご覧ください。

当院でのお申込までの流れ

step1

「問診票」を印刷・記入

step2

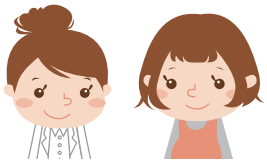


「問診票」を封書にし、ポストに投函

step3

「妊娠と薬情報センター」から「相談方法のお知らせ」が送られてくる

step4



「相談方法のお知らせ」に従って外来予約をとり相談を受ける

①国立成育医療研究センター・**妊娠と薬情報センターのホームページ**から、**「問診票」をダウンロード**し必要事項を記入します。「7. 相談方法の記入」の「妊娠と薬外来での相談希望」の欄に「岡山医療センター」とご記入下さい。

②問診票を封書にし、ポストに投函（相談依頼書は不要）。
送付先：〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
国立成育医療研究センター内 妊娠と薬情報センター

③問診表が妊娠と薬情報センターに到着すると、国立成育医療研究センターより「相談方法のお知らせ」をお送りします。こちらをご確認し、**外来予約をおとりください。**

④外来受診日に来院し、相談を受けてください。

岡山医療センター 妊娠と薬外来

※完全予約制です。

国立成育医療研究センターへ申し込みをした方しか予約をおとりできません。

外来日：毎週 木曜日（祝日は除く）
時　間：14:00～16:00（要予約）
費　用：5,250円（30分まで）
10,500円（30分以降60分まで）
自費診療 消費税込み

妊娠と薬外来の予約に関しては、国立成育医療研究センターから送られてくる「相談方法のお知らせ」に従って、予約をおとりください。詳細を知りたいとき、不明な点があるとき、困ったとき（ホームページが見られない、問診表がダウンロードできないなど）は妊娠と薬情報センターまでお電話ください。

320列CT装置導入

■放射線科

平成25年10月1日より、320列CT装置（東芝社製）が稼動予定となっています。

320列CT装置では既存装置の約5倍の範囲（160mm）を1回転で撮影することが可能となります。冠動脈CTにおいては1心拍で全画像取得が可能となるため歪みやゆがみが生じにくく、また体動の影響を受け易い小児検査や息止めが難しい高齢者検査において動きの少ない画像が得られます。さらには、撮影時間短縮による使用造影剤量の減量や被ばく線量の大幅な低減などが利点として考えられます。

様々な可能性を秘めた最新CT装置によって、皆様方のお力添えになれれば幸いです。

初期研修医通信　教え、伝え、育まれる

■医師育成キャリア支援室
腎臓内科医長　太田　康介

初期研修医はそれぞれの診療科で研修されています。また6月初旬には鹿田レガッタ（4人漕ぎボートによる岡山大学病院の診療科などの対抗レース）に数チーム参加し、初戦突破を果たした艇がありました。

さて、当院には医学生（医学部医学科学生）さんが臨床実習（クリニカルクラークシップ）や見学のため訪れます。

当院に興味を持っている医学生は、5年生の頃に卒業後の初期研修先を決めるために当院を訪問・見学されます。これは医学生にとって大事な機会ですが、病院にとっても当院に興味を持っている医学生との接点となり当院をアピールする重用な場面です。当院では、当室スタッフからの説明・案内の他に初期研修医に同行してもらい実際の業務を見てもらうようにしています。初期研修医から直接に仕事内容や研修の感想などが聞けるところが大きな利点です。

初期研修医　秋定 直樹医師（左）から医学生への説明の様子

研修医と医学生の接点としてはNPO法人岡山医師研修支援機構が主催するマッチングプラザがあります（今年は5月末、ママカリフォーラムにて）。「医師の就職説明会」とでもいえる会ですが、当院は当室が主体となってブースを開いています。今年は初期研修医6名が参加し医学生などに当院での研修の魅力を伝えていました。参加したある初期研修医は「自分たちの説明で医学生が当院を選択してくれればうれしい」とのことでした。

ブース訪問者と面談中の初期研修医　高田　健二医師

また授業の一環であるクリニカルクラークシップで当院を訪れた際には初期研修医の働きぶりが医学生の印象に残っているようです。

このように研修医が日々の診療以外にも活躍していることにご理解・ご支援いただければ喜ばしい限りです。

今年も開催　地域医療連携の夕べ

■地域医療連携係　三宅　博之

患者さまをご紹介いただくかかりつけ医の先生方との「顔の見える連携」を深めるために毎年開催している『地域医療連携の夕べ』も回を重ねて、今年で8回目を迎えました。最近では、各病院の看護師、ソーシャルワーカー等の連携室職員の皆さまにも参加いただくようになり、今年6月には当院の職員と合わせて約250名が一堂に会して、お互いの名刺に加え様々な意見の交換を行いました。

昨年以来の当院の病棟・病床の状況により、患者さまの受入や退院調整においていろいろと難しい場面も多々ありますが、こうして直接かかりつけ医の先生方や連携室の皆さまと率直に語り合うことで、お互いが地域で果たすべき役割の中でよりよい関係を築くことができれば、そしてこの会を通じて地域医療連携室が少しでもそのお手伝いをしていければと考えております。

最後になりましたが、お忙しい中足を運んでいただいた皆さま、運営にご協力いただいた職員の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。

かかりつけ医ハンドブック まもなくお披露目です

■地域医療連携係　三宅　博之

当院から患者さまを地域の先生にご紹介するとき、患者さまがお住まいの近くでかかりつけ医の先生をお探しのときにお役に立てばとの思いから、このたび地域医療連携室で『かかりつけ医ハンドブック』という小冊子を企画いたしました。

これまでにも当院ホームページ上で、各医院・診療所の地図や診療科目、診療日などを検索できるように約270施設の情報を公開しておりました。今回の『かかりつけ医ハンドブック』は、ホームページから掲載内容を抜粋し、先生方や医院・診療所のお写真を一部リニューアルして、コメントなどとともにコンパクトなサイズにまとめたものです。

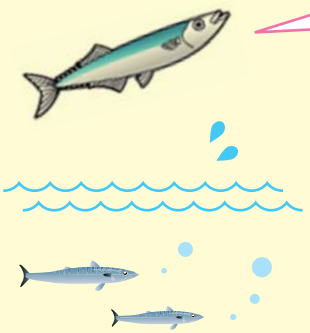
一日も早くこの小冊子を活用いただけるよう、患者さまと地域の先生方のお手元に届けるべく、ただいま設置場所や配付方法について検討していますので、もう少しお待ちください。

栄養管理室 PRESENTS!

栄養満点！ヘルシーメニュー

紫蘇とみょうが香る

秋刀魚の南蛮漬け



知って欲しいな「秋刀魚」のこと

秋刀魚は栄養的にも非常に優れた青魚である。良質なたんぱく質や貧血防止に効果のある鉄分、骨や歯を丈夫にするカルシウムとその吸収を良くするビタミンDを多く含む。成長期や中高年の方には積極的に摂りたい魚である。また不飽和脂肪酸のDHA（ドコサヘキサエン酸）とEPA（エイコサペンタエン酸）が豊富に含まれている。これらの不飽和脂肪酸には血液をサラサラに保ち、コレステロールを下げる働きがあり、DHAは脳細胞の働きを活発にし学習能力の向上、痴呆を防ぐ効果も期待できる。

「秋の味覚」で一番に思い浮かぶのは、やはり秋刀魚ではないでしょうか？庶民の秋のご馳走「秋刀魚」を、今回は紫蘇と茗荷で彩り南蛮酢に仕上げてみました。秋刀魚の塩焼きだけでなく、こんな変わり種はいかがですか？骨が苦手なお子さま、お年寄りにも骨を気にせず食べていただける一品です。

【材料】（1人分）

●秋刀魚	1尾
●みょうが	2個
●しそ	6～8枚
●片栗粉	適量
●揚げ油	適量

《南蛮酢》

●酢	30cc
●砂糖	15g
●醤油	3cc
●だし	15cc
●しょうが	3g

【作り方】

①秋刀魚は３枚に卸し片身を４等分ずつに切り分ける。
②切った秋刀魚に１切れずつ紫蘇を１枚で巻く（写真参照）。
③片栗粉をまぶして、170℃の油で揚げる。
④南蛮酢を合わせ半分のみょうがも一緒に入れておく。
⑤揚げたての秋刀魚を④の南蛮酢に入れる。
⑥しばらく置いて味がなじんだら皿に盛りつけ、
　残りのみょうがと紫蘇を添える。

ズームアップ！紫蘇

紫蘇特有の香の元は、ペリルアルデヒドという成分で、嗅覚神経を刺激して胃液の分泌を促し、食欲を増進させる健胃作用もあると言われています。さらにペリルアルデヒドは強い防腐作用を持ち食中毒の予防にも役立ちます。

さらに近年、シソ科植物の種子から抽出したシソ油が注目されています。シソ油に豊富に含まれる不飽和脂肪酸「α-リノレン酸」は体内でEPAに変化し血栓を防ぎ、血液の流れをサラサラにする働きがあります。脳卒中、心臓病などの成人病を効果的に予防します。

ただし、やはり油・・・高カロリーですので摂りすぎには注意しましょう。

臨床研究推進室便り

最近、治験に協力して頂いている患者様から『テレビで治験に関する番組を見たよ』などの声をよく聞きます。以前よりも「治験」という言葉が身近になっているようで、私たち治験コーディネーターも嬉しく思っています。

7月、鳥取医療センターへ、吉井副師長が「治験コーディネーターとして働く看護師の役割」ということで講演に行って参りました。鳥取医療センターの看護師から、分かりやすく、興味の持てる内容だったと評価いただけました。今後、当院での治験の啓蒙にも更に努めていきたいと思います。

現在実施している治験のご案内です。多くの患者様が治験に参加して頂いています。ぜひ自分も治験に参加してみたいという方がいらっしゃいましたら、担当の医師もしくは、下記連絡先にご連絡下さい。

- 糖尿病領域：糖尿病で神経障害のある方
- 循環器領域：症候性深部静脈血栓症および急性肺塞栓症の方
- 血液内科領域：多発性骨髄腫を発症した方
- 呼吸器科領域：医療用麻薬（痛み止め）内服中の方

臨床研究推進室（治験管理室）
TEL：086-294-9519
（平日のみ）
その他、当院実施中の
治験参加に関する
問い合わせも受付しています

ただし、どの治験にも『参加できる条件』がございますので、参加をお断りする場合もあります。ご了承ください。

医療安全レポート

－セーフティーマネージャー会議より－

教育委員会とコラボ

7月、卒後2年目看護師を対象として「安全な看護について看護師の役割と責任」をテーマに研修を行いました。

研修初めの講義も、昨年の自分たちのインシデント状況、人間の特性などをふまえ、危険予知や指差呼称を確実に行うことでインシデントは減少するという内容で、研修生は興味深く聴講していました。

その後、実際に起こったインシデントを用いてKYT（危険予知訓練）を行いました。自分の行っている事を元に、危険予知という視点で患者様を看ることや、環境を整えていく事など活発なグループワークが行えました。研修の成果発表時にはどのグループもそれぞれの目標を立てることができ、それを指差呼称で元気よく発表できました。研修後「指差呼称の重要性を改めて感じた」「他病棟の意見交換ができ刺激になった」等の反応がきかれました。

今回の研修を担当し研修生は「危険予知」という視点が芽生え、「指差呼称の重要性」を再認識したと感じ取れました。病棟での状況を確認したり、スタッフに学びを共有する場を設ける等の働きかけを行うことで今回の学びを定着させ、安全な看護を提供していきたいと考えます。

看護助産学校通信 Vol.14

オープンスクール大盛況!!

看護学科　教員　石川　涼太

今年も暑い夏がやってきました。去る7月20日土曜日に本校のオープンスクール第2回が開催されました。例年にない暑さでしたが、234名という大変多くの方にご参加いただきました。岡山県や広島県など中国地方を中心に、南は鹿児島県、北は福島県に至るまで全国津々浦々からお越しいただき、盛況のうちに終えることができました。

まずは西田副学校長からのご挨拶、引き続いて、本校の沿革について説明を行いました。その後、看護・助産技術体験、学校・寮見学、病院見学、進路相談等に分かれて、ご希望される内容に参加していただきました。

助産技術体験では、毎回希望者が多数となる大人気のハンドアロママッサージの体験がありました。参加された方は、静かな落ち着いた雰囲気の中で手のアロママッサージを受け、日頃から受験勉強や部活などで疲れた身体や心を癒すことができたのではないでしょうか。また公開講座では「聴診器を使ってみよう!」というテーマで看護教員が講義を行いました。高校生や保護者の皆様は、初めて触れる聴診器に興味津々で、自分や友達の心音や呼吸音をとても楽しそうに聞いており、未来の看護師の姿そのものでした。

オープンスクールを終えて参加者の皆様からは、「学生さんが明るく丁寧に話しをしてくれて嬉しかった。」「すごく楽しくてますます入学したい気持ちが高まった。」等といった感想を多くいただくことができました。こうした皆様からの感想は、来校される方に喜んでいただけるように何度も企画を検討し準備を進めてきた学生たちにとって、自身と励みになったのではないかと思います。本校は、9月28日土曜日には学生祭を、11月2日土曜日には今年度最後のオープンスクールを計画しております。まだお越しいただいたことのない方も、ぜひ一度学校へいらしてください。教員、学生一同皆様のお越しを心よりお待ちしております。

病院見学　～スキルアップラボ～

助産技術体験～オムツ交換～

看護技術体験～心肺蘇生法～

西田副学校長　挨拶

リソースナース室通信 Vol.16

夏の脳梗塞に注意!

夏に注意が必要な病気というと、皆さんがすぐに思い浮かぶのは最近ニュースなどでも良く聞く熱中症でしょうか。しかし、それ以外にも気をつけなければならない病気はあります。その一つが脳梗塞!脳の血管が詰まる病気です。脳梗塞が夏に多い原因の一つに脱水があります。脱水により血液がドロドロになり、血の塊である血栓ができやすくなるのです。夏は汗をかかなくても体から水分が奪われています。予防にはこまめに水分補給をすることが大切です。朝起きた時や寝る前、運動の前後などコップ1杯の水で構いません。適切な水分補給で夏の脳梗塞を予防しましょう。

皆さん。
こんなことをやってほしい!
というリクエストを
お待ちしています!

独立行政法人国立病院機構
岡山医療センター附属 岡山看護助産学校

看護技術体験 ～聴診法～

★第14回学生祭
「私からあなたへつながる笑顔～SMILE to smile～」

- 日　時：**平成25年9月28日(土)**　一般公開**10:00～14:00**
- 会　場：**独立行政法人国立病院機構**
  岡山医療センター附属　岡山看護助産学校
  岡山県岡山市北区田益1711-1　TEL:086-294-9292
- 催し物：公開講座「地域住民の方を対象に健康教育(講師:看護教員)」
  わんぱくランド、健康ランド(看護技術体験)、学習の展示
  助産学科の技術体験＆在校生との座談会、物品バザー
  野菜販売、花販売、模擬店、お茶会　etc

看護技術体験
～沐浴～

多数の方のご参加お待ちしております！
お申し込みは不要です。

★OPEN SCHOOL 2013

日時:**平成25年11月2日(土)**　9:30～14:00
(お申込み受付期間:10月31日(木))
＊病院フェスタと同時開催になります。

会場:**独立行政法人国立病院機構**
岡山医療センター附属　岡山看護助産学校
岡山県岡山市北区田益1711-1
TEL:086-294-9292

オープンスクールの内容

①学校紹介
②公開講座
③看護(助産)技術体験コーナー
④個別進路相談
⑤在校生との交流会
⑥学校見学・学生寮見学・病院見学
⑦展示コーナー
(ユニホーム、教材模型、テキスト等)

※軽食も準備して、皆様のお越しをお待ちしています。

お申し込み・お問い合わせ方法

電話・FAX・メールでお申し込み下さい
電 話:086-294-9292
FAX:086-294-9552
E-mail:n-school@okayama3.hosp.go.jp

電話・メールでのお申し込みの場合は下記の内容をご連絡下さい。

①参加者氏名・年齢・性別・連絡先
②参加希望日
③公開講座の参加希望の有無

※電話での場合は平日8:30～17:15までの時間帯でご連絡ください。
お申し込み受付期間をすぎましても随時受付可能です。
当日参加も受け付けております。

キャリアアップ研修を企画して

■教育担当看護師長　森川　真美

当院は「能力開発プログラム」を基に研修を企画しています。経年別に企画していますが、6年目以上の看護師の研修は少なく、各個人のキャリアデザインを描き支援するには至らないのが現状です。そこで、今年度は経験を積んだ6年目以上の看護師を対象にキャリアアップ研修を企画しました。

「今さら聞けないシリーズ」としてフィジカルアセスメント（呼吸管理）を5回シリーズで受講者を募集したところ60名の応募がありました。これまでの経験に加えてきちんとした知識を身に付け、実践力をつけたいと思っているベテラン看護師のニーズを感じました。現在2回終了しましたが、満足度はとても高い研修となりました。今後もベテランと言われる看護師達が自己の経験を内省する機会となり、自己成長を実感してもらえ、更にはロールモデルとして現場教育に活かしていけるのではないかと大きな期待をしています。

地域医療研修室

医療者のためのセミナー・講演会（10～11月）

会場：当院西棟8階大研修室
時間：19:30～20:30

日　程	種　別		演　者
平成25年 10月 8日（火）	第43回 薬剤師研修会	最近の抗血栓薬の使用に対する考え方	循環器科医師　宗政　充
平成25年 10月15日（火）	第15回 地域医療研修セミナー	乳癌について（仮）	乳腺・甲状腺外科医師 秋山　一郎
平成25年 11月19日（火）	第13回 地域医療研修セミナー	皮膚疾患について（仮）	皮膚科医長　浅越　健治

岡山医療センター 再就職チャレンジ講座

1日目	講　義	最近の医療と看護について、医療安全
	実　習	病棟での職場体験
2日目	講　義	急変時の看護、演習、感染管理
	病院見学	スキルアップラボでの技術演習
3日目	実　習	病棟での職場体験
	座談会	意見交換会

対　象　看護師の資格を有し、看護の仕事からしばらく離れている方
期　間　10/21(月)～23(水)　10:00-15:00
受講料　無料　多数のご参加をお待ちしております
服　装　白衣、白い靴　お持ちでない場合はお貸しします
受　付　研修当日は9:30までに西棟研修室4へ

お申込・お問い合わせ
お申し込みはお電話で TEL 086-294-9911
国立病院機構岡山医療センター　担当 井原

看護師募集

花と笑顔と語りかけの病院でいっしょに働きませんか!

当院では今、常勤または非常勤の看護師を募集しています。
経験の有無にかかわらず、当院での勤務をお考えの方は下記あてにご連絡ください。

○定員80名の保育所では、日曜・夜間保育だけでなく病児保育も実施
○24時間いつでも利用できるスキルアップラボ、模擬ホスピタルなど充実の設備
○専門職としてのキャリアアップを支援（専門看護師・認定看護師）

昼間だけなら働ける、看護師の仕事から少し遠ざかっていた…
まずは担当までお電話ください。
ご相談に応じます。

お問い合わせ
人事担当 秋田
TEL 086-294-9911
（内線8183）
〒701-1192 岡山市北区田益1711-1
国立病院機構岡山医療センター

看護師採用試験　願書〆切 10/4(金)　4次試験 10/18(金)　5次試験 10/19(土)

編集後記

最近、東京に行ったが、オリンピック招致が決まり、なんとなく活気付いているように感じられた。出張ついでに手術の器械で鉗子（かんし）を作っている墨田区のある町工場を見学した。ステンレス鋼を叩いたり研磨したりして手仕事で仕上げている。今、新興国の安い粗悪品で、彼らの存在が危ぶまれている。いわゆる絶滅危惧種だ。いい腕の金属加工職人が作った鉗子は数十年以上もつ。わが病院にあるほとんどの手術器械は国立岡山病院からのもので、彼らが作った名品揃いなのである。（臼井）

ザ・ジャーナル!!
広報第8巻　第2号　平成25年9月25日発行（年4回発行）　発行責任者／津島知靖　編集責任者／臼井由行　独立行政法人 国立病院機構 岡山医療センター 医療広報推進室
〒701-1192 岡山市北区田益1711-1　TEL 086-294-9911　FAX 086-294-9255　URL http://okayamamc.jp/　E-mail info@okayama3.hosp.go.jp　印刷：㈱ 中野コロタイプ